

# 震災1年世論調査

# 「脱原発」8割賛成

## がれき受け入れ78%容認

原発への依存度を段階的に下げ、将来は原発をなくす「脱原発」という考え方に「賛成」(44%)、「どちらかといえば賛成」(36%)を合わせて80%に上ることが、本社加盟の日本世論調査会が10、

11の両日に実施した東日本大震災1年の全国面接世論調査で分かった。  
(3面に関連記事)  
一方、現在52基が停止中の原発については「電力需給に感じ必要分だけ再稼働を認める」が54%

で、短期的には現実的な対応もやむを得ないとする姿が浮かんだ。また国の被災者支援策は「評価しない」(24%)「どちらかといえば評価しない」(39%)が計63%で、政府への厳しい姿勢がうかがえる。

住んでいる自治体で、放射性物質が基準値以下のがれきの受け入れ計画があった場合、「受け入れられる」が計78%に上った。

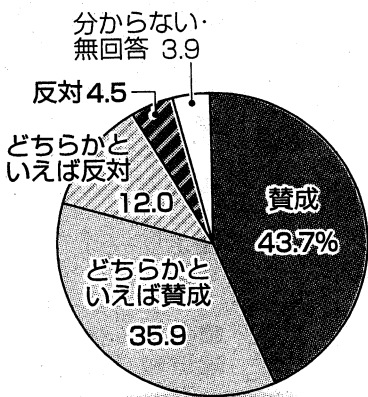
東京電力福島第1原発事故の影響で、全国で電気料金値上げの可能性が浮上しているが、回答で「受け入れられる」が計51%と拮抗した。

「不安」が計48%、「受け入れられない」が計48%、「どちらかといえば受け入れられない」が計51%と拮抗した。

そのほかでは、現在の福島第1原発に「不安」が計92%に達し、昨年末の政府の事故収束宣言が国民に安心感を与えていないこと

【注】小数点1位を四捨五入した。

### 「脱原発」への賛否



### 放射性物質が基準値以下のがれき受け入れ計画について

